[Advancing Variable Star Astronomy]
(AAVSO 100 年記念出版)の紹介

佐久間　精一

(VSOLJ :Var. Star Observers' League in Japan)

要旨

AAVSO(American Assoc. of Var. Star Observers)の創立１００周年を記念して出版された本書の紹介と、併せて、出席した１００周年記念会の状況を報告する。

１．著者・出版社

Dr.Thomas R. Williams と Dr.Michael Saladyga との共著であり、筆者は２５年前の７５周年記念会で両者に面識を得て現在まで交流している。

Dr.Williams は Houston 在住、Shell 石油の Chem. Engr.だったので筆者の専攻と同じであった。AAVSO の元 President であるが観測者では無く、天文史に関心があり、会社を retire してから大学で歴史学を専攻し学位を得た。

Dr.Saladyga はポーランド出身で、Yale 大学で輝星カタログで有名な Dr.Hoffleit の助手を勤めた後、1985 年から AAVSO 本部に勤務している。その傍ら、英米文学を専攻して学位を得ている。

これら著者の経歴をみても本書の性格が窺いしれるであろう。　BAAVSS(イギリス天文協会変光星部会)の書評によれば高価すぎる（８０＄）とあったが、B５版４３２ページの本書は円高のせいかそうとは思えない。　出版社は、Cambridge Univ. Press で会員以外でも、例えば Amazon を通じて入手できる。

２．豊富な引用文献とノート

まず気になるのは、記述が豊富な引用文献により正確に行われていることである。引用文献は全編で１４１２に及ぶ。全編は年代順に Part 1~6 に別れている。

Part 1. Pioneers I n Variable Star Astronomy prior to 1909 は AAVSO 創立前の歴史で筆者の知る限り今までの成書より格段に詳しく２２ページが費やされている。

Part 2~6 は歴代の AAVSO の代表者と、その活動を要約したタイトルになっている。

Part 2. The Founding of The AAVSO – The William Tyler Olcott Era

Part 3. Recoding and Classification － The Leon Campbell Era

Part 4. The Service Bureau － The Margaret Mayall Era

Part 5. Analysis and Science － The Janet Mattei Era

Part 6. Accelerating Observational Science－The Arne Henden Era

本研究会に特に関係するのは Part 3 までくらいであるが、この部分の引用文献は主に Popular Astronomy 誌（1894~1955 廃刊）からで２１編に達する。この雑誌は名称のためか研究機関には所蔵が少なく閲覧が難しいので有用である。”popular”とは言え内容はかなり高度であった。

３．４人の女性

筆者は「談天の会」で「ハーバード天文台に集まった女性天文家」と題して発表したことがある。

その流れを汲んでいるため AAVSO には女性のリーダーが多い。本書では特に４人の女性について謝意を表している。何れも故人であるが、彼女らがいなかったら AAVSO の歴史は無かった　と記している。 M.W.Mayall, Janet Mattei, E.D.Hoffleit, M.L.Hazen の４人である。初めの２人は Director であった。

E.D.Hoffleit は先年１００歳で亡くなったが、ハーバード天文台長 Pickering 時代の助手の最後の一人であった。東京天文台長古畑正秋先生は戦前の留学生時代からの旧知で最後まで付き合って居られた。

M.L.Hazen はハーバードの女流天文学者で、ともすれば疎遠になりがちな AAVSO とハーバード大学との間のつなぎ役であった。彼女の父君は MIT の電気工学の教授で、彼は戦後まもなくのアメリカ工業教育使節団の団長として来日し、筆者の大学時代の恩師内田俊一教授（後に東京工大学長、文化功労者）と親交があった。同伴で来日した夫人である彼女の母堂はボランテイアで AAVSO 本部を手伝って居られた。筆者が内田教授門下と知り驚いて居られたが、昭和天皇崩御の時にはわざわざ弔慰の手紙を下さった程の親日家であった。

４．Pickering の Paradigm Shift

ハーバード天文台長の Pickering はアメリカのみならずヨーロッパへも出張して古くからの未発表の変光星観測記録を集め出版したりもした。１９０６年の Harvard Circular にて、天文台職員（プロ）あるいは練達したアマチュアによる個々の変光星の詳しい観測は特に興味ある変光星を重点とし、天文台の（写真）設備を使い微光の各種変光星の分布の（統計的）研究を行う、その他の類型的な変光星（例えばミラ型）はアマチュアに任せる　とした。これが AAVSO 創立のきっかけとなった。この頃は新変光星の発見が相次ぎ

同じ様な考えのもとで１８９９年イギリスに、１９０１年フランスに変光星観測者の団体が出来た。アメリカもこれに追随したのは当然の成り行きであるが、（科学）史家が好む Paradigm との語が使われているのが面白い。

５．トピカル事項

（１） 高価だったハーゲン星図。日本でも使われたハーゲンの変光星図は各巻３７～６５星収録して＄５０（現在価値＄１０００）であった。個人では購入が難しかったが、諏訪の旅館経営の河西氏はこれを基に「湖月チャート」と名付けた変光星図
を作成し観測者に配付された。

（２） 神田茂先生への Council member 入り要請。１９３０年 AAVSO は local 組織を日本につくるため神田先生の役員就任を要請した。当時山本一清先生は AAVSO にならって日本変光星学会を計画しておられたので、特に東亜天文学会会員の間に物議をかもした。神田先生はこの要請を辞退されたと聞いている。

（３） 山本一清先生ご夫妻の写真。本文７３ページに１９３０年 Yerkes 天文台での AAVSO メンバーの Parkhurst,Van Biesbrook らとのご夫妻の写真がある。興味ある写真が数多く掲載されているのも本書の特徴である。

（４） World War Ⅱ　と会員。Mr.Foster D.Brunton は 6 inch 赤道儀を持参し海軍設営隊員とし

てグアム赴任していて１９４１年5月３０日にAAVSOに入会した。その半年後、開戦となりグアムは１２月１０日に日本軍により占領され彼は捕虜となり終戦まで神戸の収容所に拘束された。戦後無事帰国したのは不幸中の幸であった。アメリカの観測者に比べると日本は悲惨で、内藤、岡林の両氏は戦死している。

（５） 書中に名前の記された日本人。神田、山本両先生以外は下記の通りである。
眼視観測者ベスト１００（２００８年まで）：８８位 32280 目測　平沢康男氏
眼視的の新星発見・被表彰者：五味、岡林、串田、長田、池谷　各氏
（フィルムやＣＣＤを介しての発見は表彰しないとの慣行で、本田、桑野氏らは含まれていない）

６．まとめ

Part 6 ではAAVSOのみならず変光星研究分野の将来、次の１世紀に向かっての方向付けもされているが、本研究会に直接関係ないと思われるので割愛する。日本や世界中のアマチュアを含む天文団体が、より専門的に向うのと、初歩的な啓蒙活動を行うのと分極化してゆく傾向はAAVSOも例外ではない。本書は変光星に関心を持つ人々にはぜひ目を通して頂きたい（精読するのは大変である）。

付記：　AAVSO 創立１００周年記念会

２０１１年10月４～８日にBoston　近郊のCambridge およびWoburn　で開かれた。会の全般の状況は、出席した清田氏により昨年の変光星観測者会議（10月２９～３０日　平塚市博物館）で報告されたのでその収録を参照されたい。筆者も「Star Watching Promoted by the Ministry of the Environment, Japan」をPaper Sessionで発表したが、ここではアーカイブ資料保管の状況など、本会に関係する事項を記す。

以前に「Sky&Telescope」社が使っていたビルをAAVSOは数年まえから本部（HQ）として 使っていたが１００周年に合わせて、整備し、10月６日に、HQ building dedicationのCeremonyがあった。貢献した会員の名称を付した新しい設備が披露された。会議室は　Hoffleit Conference Center, 資料室は　Thomas R. and Anna Fay Williams Historical Archives, 調査・研究のための宿泊設備はWalter A.Feibelman Suite である。図書室も良く整備されていて、ここへ来れば過去の変光星関係の文献はほぼ全部検索できると思われた。Archiveでは、日本人として最初の報告者（まだカリフォルニア州滞在中）の山崎正光氏の１９１４年の報告もすぐみることができた。今後大いに活用されるであろう。写真を添付した。

写真　１　表紙
２　書中の山本先生ご夫妻の写真
３　共著者　Dr.Saladyga
４　Archive 室前にて　（左）Dr.Henden(Director)
（右）　Dr.Williams(共著者)
５　Archive
６　Archive室の奥に飾られたCannon女史の肖像画

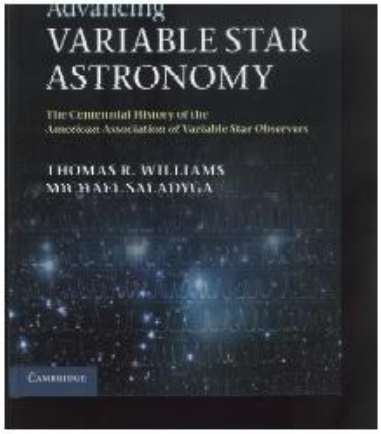

Figure 6.11. AAVSO members at Yerkes Observatory, May 1930. Front row, Kyoto Observatory Director Isaci Yamamoto, Mrs. Yamamoto, John A. Parkhurst, H. L. Eddy, back row, Ralph Buckstaff, Anne S. Young, and Yerkes astronomer Georges Van Biesbroeck.